

Institute of Socio-Economic Planning  
Discussion Paper Series  
No. 604

*HyperScaling*  
*in*  
*Image Research*

by

MATSUDA,Noriyuki\*,and NAMATAME,Miki\*\*

\*Institute of Socio-Economic Planning, Univ. of Tsukuba

\*\*Design Research, Tsukuba

Sep, 30,1994

The authors are thankful to Mr.SENO,Makoto for his excellent technical assistance.

Contact:

MATSUDA,Noriyuki

Associate Professor

Inst. of Socio-Economic Planning, Univ. of Tsukuba

1-1-1 Tennoudai, Tsukuba, Ibaraki 305

JAPAN

tel: (0298) 53-5170 fax:(0298)55-3849

email:mazda@shako.sk.tsukuba.ac.jp



# Image Research Report

## 第1章 特徴

1-1 特徴 .....	3
--------------	---

## 第2章 スタック群について

2-1 構成 .....	4
2-2 進行 .....	5
2-3-1 反応記録用外部ファイル .....	5
2-3-2 反応記録の保持と共有 .....	6
2-4 グローバル変数について .....	6
2-5 Scaling Methodについて .....	7

## 第3章 各スタックについて

3-1 Project homeスタックについて .....	9
3-2 "はじめに" スタックについて .....	13
3-3 "Stage 1"スタックについて .....	17
3-4 "Stage 2"スタックについて .....	21

## 付録 開発者のために

1 Hyper Scaling のスクリプト .....	29
2 ピクチャーの表示について .....	31

# 1 章 特徴

## 1 - 1 特徴

HyperScalingのスタック群の特徴を以下に示す。

- HyperTextによるanchoring機能
- 反応記録をフィールド"record"(反応保持のために設定したフィールドはすべてこの名前を与えられる。) 保存し共有化を図る。
- また上記のことにより測定項目の増設、削除が容易におこなえるようになった。
- 操作の統一性を保っている。例えばボタンの表示に関しては"show Up", カードの再構築、設定には"reset"というメッセージを使う。
- カードの移動は、被験者が"OK", "NEXT"などのボタンを押す事によって行われる。これにより被験者にある程度の主導権を感じさせられる。
- 操作はボタンオブジェクトへのマウス操作である。クリック、ドラッグ、ホールドダウンなどが用いられる。

このレポートでは実例として、化粧品メーカーのブランド商品（スキンケアが主）の消費者評価への適用を紹介する。

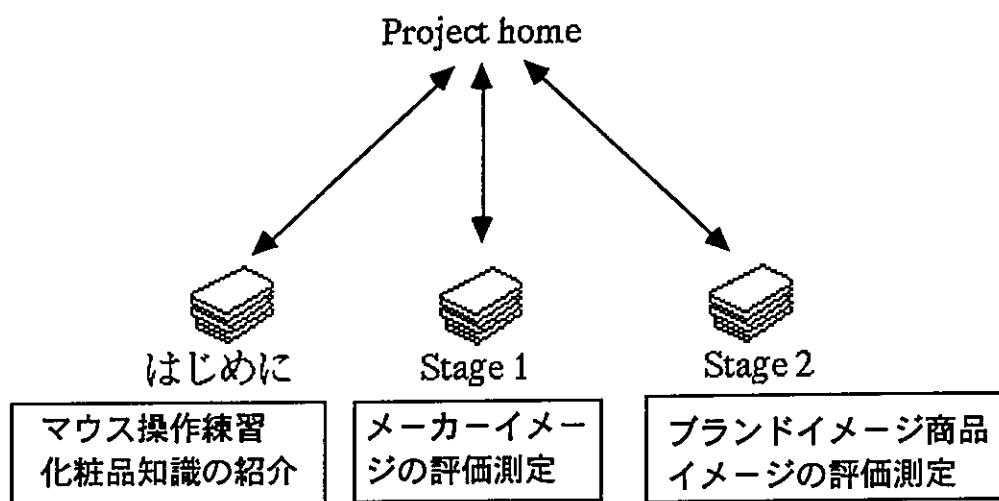
## 2章 スタック群について

### 2-1 構成

Image researchのスタック群の目的は、化粧品に対するイメージの調査である。

このprojectの基点は、"Project home"である。ここにはprojectの作動に必要なハンドラやタスクスタックに共通なハンドラが書き込まれている。

ホームスタックの下に3つのタスクスタック ("はじめに", "stage1", "stage2") がある。



projectの作動に必要なハンドラには、環境設定、各タスクスタックへの移動や被験者の反応記録の書き出し外部ファイルの設定などがある。

```

on prepare
    prepareImageLists -- gCIList,gBIList
    --disable cd btn "OK"
    ...
    ...
    hide cd btn "name cover"
end prepare

```

<b>projectの準備用ハンドラ</b> gCIList: メーカー名リスト登録 gBIList: ブランド名リスト登録
--

各タスクスタックに共通なハンドラとしては、データの作成や外部ファイルへの書き出しがある。

```
on writeOut what, atEnd
  global gOutFile
```

外部ファイルへの書き出しハンドラ  
gOutFile: 反応記録用外部ファイル名

```
open file gOutFile
```

```
do "write what to file gOutFile" & atEnd
close file gOutFile
end writeOut
```

## 2-2 進行

カードの移動は、被験者が"OK", "NEXT"などのボタンを押す事によって行われる。これにより被験者にある程度の主導権を感じさせられる。これらのボタンは初期状態では"disable"となっている。所定の条件が満たされたとき各ボタンには"show Up"というメッセージが送られ"enabled"となる。

これに対応したハンドラを以下に示す。

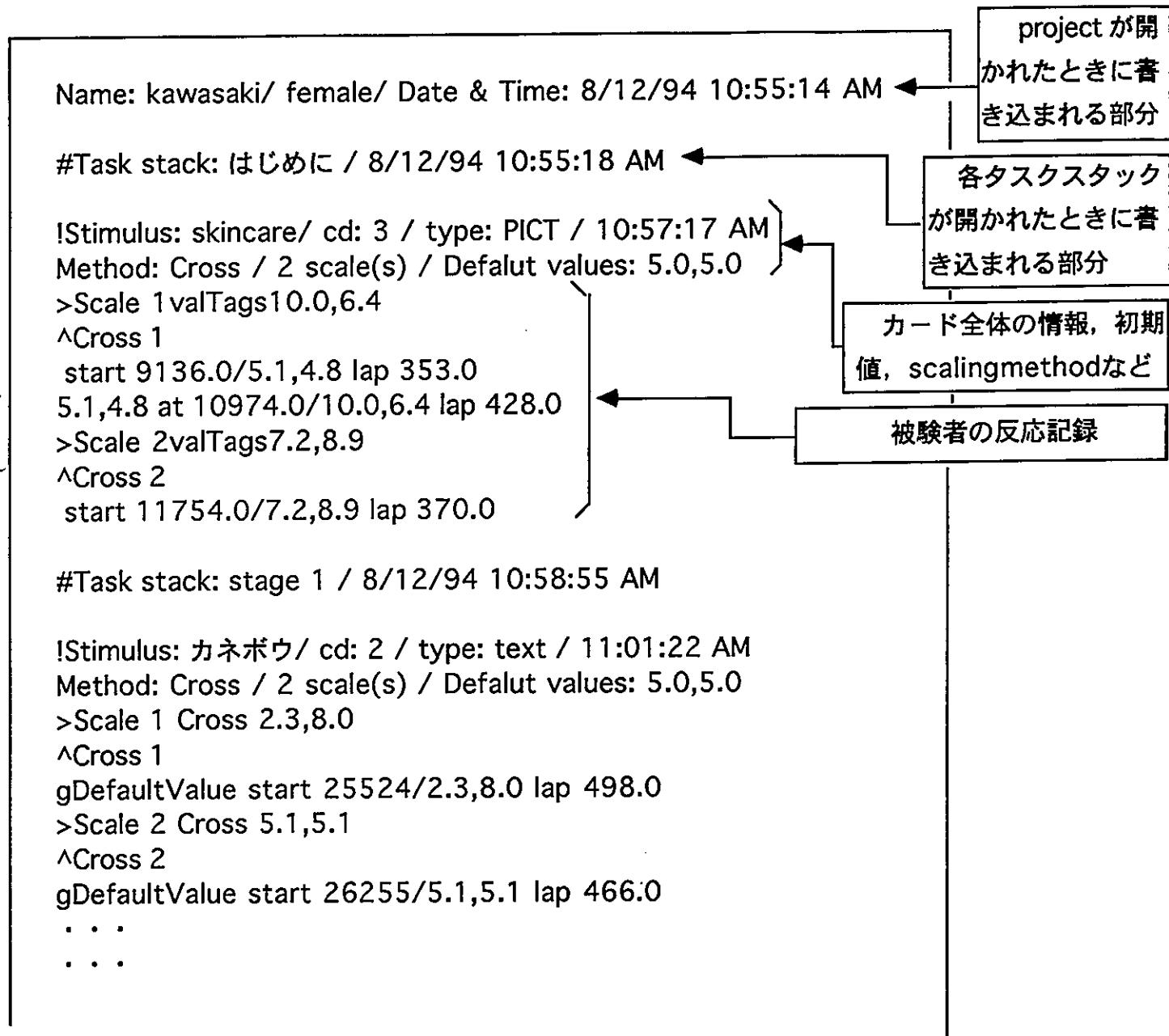
```
on showUp
  enable me
  show me
  if me is 0
    then blink the name of me,2,5
```

```
  add 1 to me
end showUp
```

## 2-3-1 反応記録用外部ファイル

"project home"で反応記録用外部ファイルが作成される。各タスクスタックからはそれに書き出しが行われる。ファイル名は、"gOutFile"というグローバル変数に入れられるので、他のスタックから参照可能である。タスクスタックでの被験者の反応は、ホームスタックのハンドラ (transferValueなど) をとおして定型化されこのファイルに書き出される。

以下に反応記録用外部ファイルの一例を示す。



## 2-3-2 反応記録の保持と共有

各タスクスタックでの被験者の反応は"record"というカードフィールドに書き込まれ保持される。反応を他スケールで利用したい場合は、このフィールドを参照する。フィールドに書き出す事によってグローバル変数を利用しなくても共有する事ができる。更新されない場合も前のものが残っているので、それを利用できる。

## 2-4 グローバル変数について

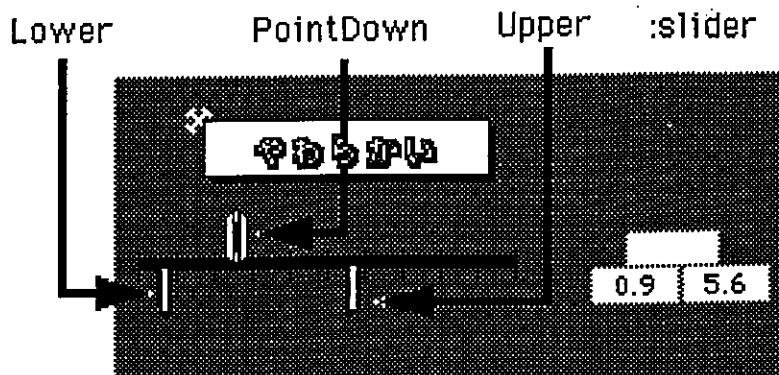
このprojectスタックにおけるグローバル変数はすべて"g"からはじまる。

## 2-5 Scaling Methodについて

このprojectでは 1 dimensional Scalingと2 dimensional Scalingの2種類のScaling Methodが用いられる。1 dimensional Scalingでは以下の6つの組み合わせが設定されている。

組み合わせ

- Point
- Interval
- Both
- Point > Both
- Interval > Both
- Point > Interval



1dimensional Scaling

### スライドボタンのスクリプト

```

on mouseDown
  get the short name of me
  recordStartTime it
  put (the mouseH ~ the right of me) into adjustH

  slideLower adjustH,0
  recordFinishTime it
end mouseDown

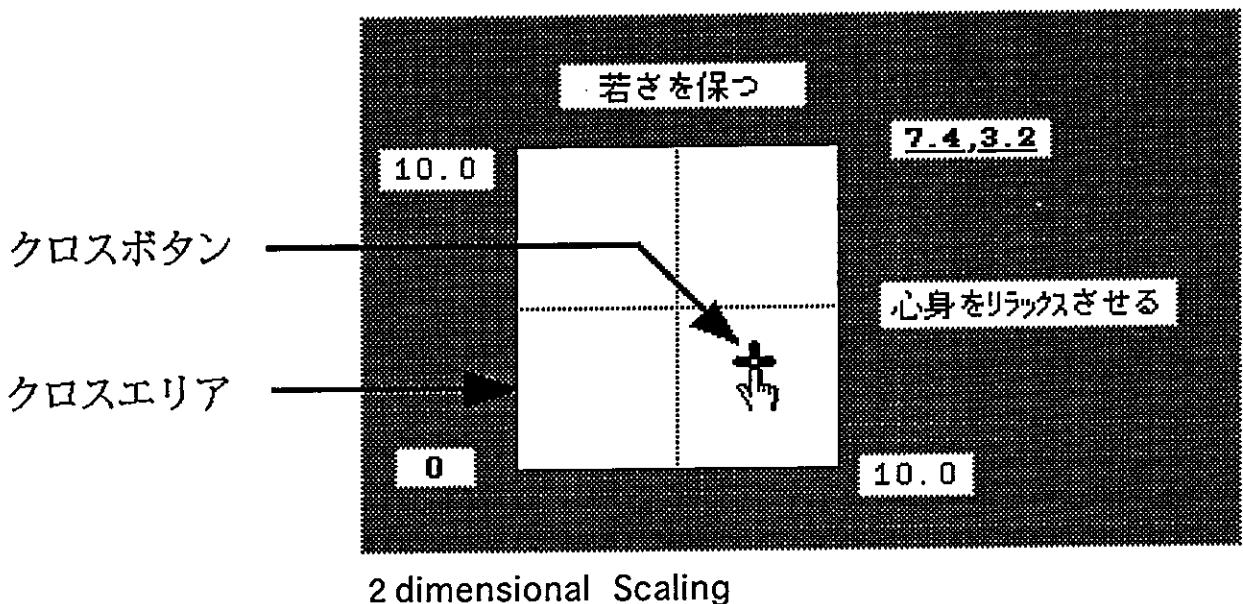
```

"recordStartTime" "recordFinishTime"でマウスダウン、マウスアップの時間を記録。ボタンの動きは"slideLower"ハンドラで制御されている。

---

slideLower等のハンドラは付録P.29におさめてある。

2 dimensional Scalingではクロスのみとなっている



### クロスボタンのスクリプト

```

on mouseDown
  put the short name of me into myName
  set the numberFormat to "0.0"
  recordStartTime myName

  get the loc of me
  put the mouseH - (item 1 of it) into adjustH
  put the mouseV - (item 2 of it) into adjustV

  slideCross adjustH,adjustV
  recordFinishTime myName
end mouseDown

```

"recordStartTime",  
 "recordFinishTime"で  
 マウスダウン、マウスアッ  
 プの時間を記録。ボタンの  
 動きは"slideCross"ハンド  
 ラで制御されている。

"SlideCross"他関連あるハンドラは付録P.29におさめている。

## 3章 各スタックについて

### 3-1 Project homeスタックについて

このスタックを起動する事によってImage researchがスタートする。このスタックを基点にユーザは3つのタスクスタックを順に起動していくことになる。このスタックが起動されてからの動きを大まかに見ていくと次のようになる。

- (1) 関係スタックの使用開始
- (2) Image researchの初期条件の設定
  - 各リストの作成
  - コントロールメニューの作成
- (3) ユーザからのデータ入力
- (4) "OK"ボタンのハンドラ実行
- (5) はじめにへ移行

ハンドラを以下に示す

```

on startUp
  start using stack "utilities"          (1) に当たる部分
  start using this stack                 同上

  set the top of card window to 40
  prepareMenu                           (2) に当たる部分
  prepare                                同上
  prepareNameFld "anyone"               同上
  select line 1 of cd fld "Person"
  pass startUp -- to the message hieracrhy
end startUp

```

以下にprepareMenu, prepare, prepareNameFd "anyone"についてそれぞれ説明する。

```
on prepareMenu
  toLockScreen
  push cd
  go to cd 2 of stack "project home"
```

フィールド"Control"のデータを使ってメニューアイテムとメッセージのリストを作成

以下ファイル "Control"参照

```
createMenu
pop cd
toUnlockScreen
end prepareMenu
```

### Special menus

menuItem: menuMsg  
menuMsg, when omitted,  
= menuItem w/out space

#### menu 'Control'

Scaling method: scalingMethod  
cd attributes: cdAttributes

-----  
Reset This cd: resetThisCd  
Reset All cds: resetAllCds

-----  
Resize btns

-----  
Initial setup

```
on prepare
  prepareImageLists -- gCIList,gBIList
  disable cd btn "OK"
  show cd btn "OK"
  put 0 into cd btn "OK"
```

"OK"ボタンをdisableに設定し,  
"0"を入力する。これは、カウ  
ンターとしての機能である。

put "はじめに,Stage 1,Stage 2,プレゼント申込み" into list

```
repeat with i=1 to the number of items of list
```

```
    disable cd btn (item i of list)
```

```
end repeat
```

```
hide cd btn "name cover"
```

```
end prepare
```

---

"はじめに, Stage 1,Stage 2,  
プレゼント申込み"への各  
ボタンを disable に設定する

```
on prepareNameFld who
```

```
    put "Person" into obj
```

```
    if cd fld obj is empty
```

```
        then put who into cd fld obj
```

```
end prepareNameFld
```

カードフィールド"Person"の内  
容を調べ, 空であれば  
"anyone"を入力する.

ここまで準備が終了した時点で次にユーザから氏名の入力がある. 入力後ユーザが "OK"ボタンを押すことにより, "OK"ボタンのハンドラが実行される. そのハンドラを見していく.

---

### "OK"ボタンのスクリプト

```
on mouseUp
```

```
    global gTaskList -- set in bg script
```

```
    transferNameSex -- in cd script
```

```
    put the loc of me into xyxy
```

```
    get the rect of cd btn "はじめに"
```

```
    set the loc of me to item 1 of it,item 4 of it
```

```
    hide me
```

```
    send "showUp" to cd btn "はじめに"
```

被験者氏名と実験日を反応記録ファ  
イル名にし, ファイルを作成する.  
ファイル名は, グローバル変数  
gOutFileでやり取りされる.

```
    set the loc of me to xyxy
```

```
    -- enable cd btn "Stage 1"
```

```
end mouseUp
```

"showUp"メッセージをカ  
ードボタンに送る

このときの画面状態を次に示す

# Welcome to the World of Cosmetics

We appreciate your interest and cooperation in our study.

Please fill out your name:

seno

male  female

Let's start a practice session first.  
Then we can move on to the real job.

OK

We hope you Enjoy it.

はじめに

Stage 1

Stage 2

プレゼント申込み

日本語の説明

©Matsuda, N. & Namatame, M. 1994.  
ISEP, Univ. of Tsukuba

### 3-2 "はじめに" スタックについて

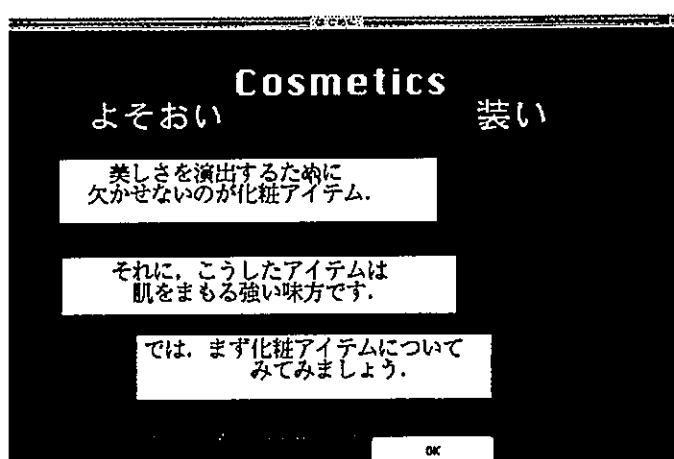
"はじめに" スタックは、被験者にマウス操作を覚えてもらうためのものである。これは、4枚のカードで構成されている。

カード1 ---- オープニング

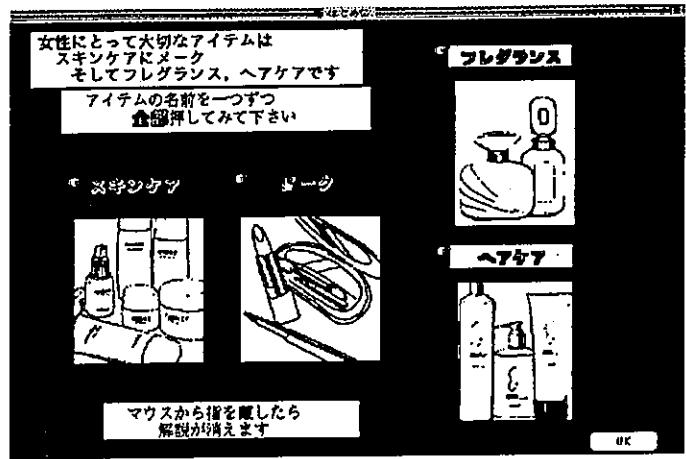
カード2 ---- アイテム説明（マウスクリックの練習）

カード3 ---- スキンケアへの期待（2D scalingの練習）

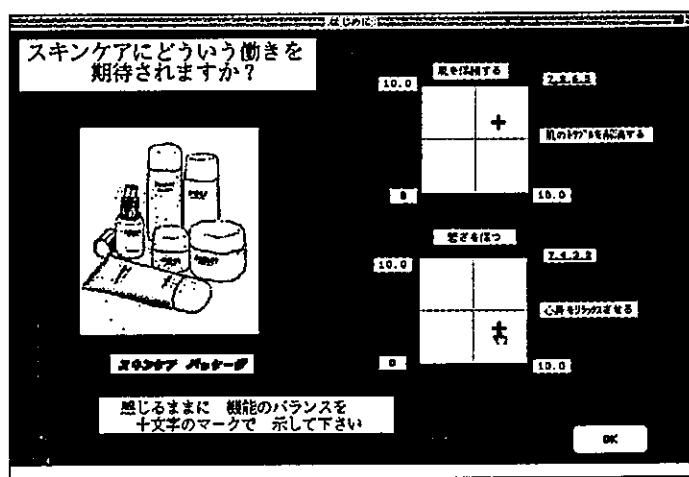
カード4 ---- 値格評定（1D scalingの練習）



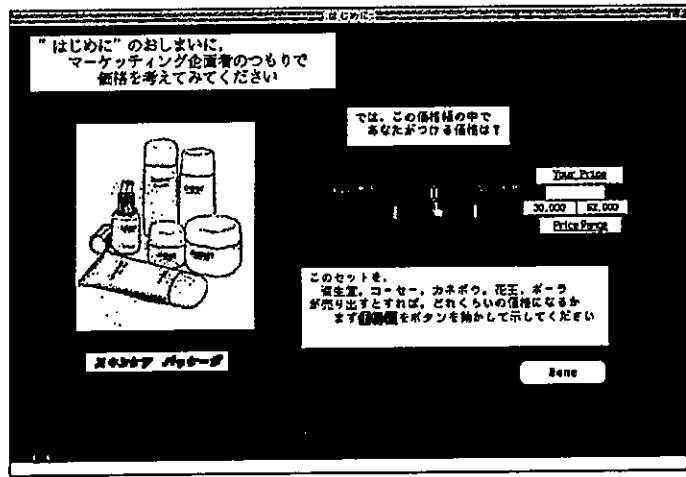
カード1



カード2



カード3



カード4

スタックにおけるカードの流れを見ていく。

on openStack

recordTaskName the short name of this stack

pass openStack

end openStack

"#Task stack:"に続いでスタック名、日付、時間が反応記録用外部ファイルに書き込まれる。

## カード1のスクリプト

```

on openCard
  showTitleBtns
  wait 30 ticks
  showNotes
  wait 20 ticks
  send "showUp" to cd btn "OK"

  pass openCard
end openCard

```

隠しておいたタイトル用のボタンやカードフィールドを順次画面上に持ってきている。カード1はオープニングのカードなので被験者は次のカードへ進むために1度ボタンを押す以外は何もしない

## カード2のスクリプト

```

on openCard
  global gMisc

  put "スキンケア,メーク,フレグランス,ヘアケア" into gMisc
  put "0,0,0,0" into cd btn "OK" -- as a counter
  wait 50 ticks
  lock screen show cd fld "note B"
  unlock screen with visual effect dissolve
  wait 30 ticks
  show cd fld "note C"

  pass openCard
end openCard

```

ボタン"OK"には"0,0,0,0"が入力されている。このカードには被験者によって操作される4つのボタンがある。各ボタンには例えばi番目のボタンがおさえたときボタン"OK"のアイテムiに1加えよというスクリプトがある。

## ボタンのスクリプト

```

on mouseUp
  add 1 to item 4 of cd btn "OK"
  set the hilite of me to true
  hide cd fld (the short name of me)
  OKorNot -- in cd script
end mouseUp

```

"OKorNot"では、ボタン"OK"のminを取り、それが0か否かすべてのボタンがクリックされたがどうかを判別している。すべてのボタンがクリックされたと判別したら、"showUp"というメッセージをボタン"OK"に送る。

```

on OKorNot
  get cd btn "OK" -- initially set to "0,0,0,0"
  if min(it) = 1
    then send "showUp" to cd btn "OK"
end OKorNot

```

```

on mouseStillDown
  get the short name of me
  show cd fld it at the loc of cd btn ("haircare")
end mouseStillDown

```

マウスがおされている間は、各項目についての情報を提示する。マウスがボタンから離ると、フィールドは閉じる。

```

on mouseLeave
  if the optionKey is not down
    then hide cd fld (the short name of me)
end mouseLeave

```

### カード3スクリプト

```

on openCard
  global gScalingMethod
    put "Cross" into gScalingMethod
  ...
  ...
  put "0,0" into cd btn "OK"
  pass openCard
end openCard

```

Scaling Methodを指示するグローバル変数"g Scaling Method"には"cross"が入力されている。ボタン"OK"に"0,0"を入力しているのは、カード2と同じ様にカウンターとして利用するためである。

```

on closeCard
  global pctName
    nOfScales
    transferScalingInfo
    transferValues
    disable cd btn "OK"
    pass closeCard
end closeCard

```

"nOfScales"は、カード内のスケールの数を調べグローバル変数"nOfScales"に代入する。

"transferScalingInfo"は、反応記録用外部ファイルの頭書部分のデータを作成する。

"transferValues"は、被験者の反応を定型化する。その後メッセージ"writeOut"を発生して、これらのデータを反応記録用外部ファイルに書き出させる。

### クロスボタンのスクリプト

```

on mouseUp
  add 1 to item 1 of cd btn "OK"
  ...
  ...
end mouseUp

```

## カード4のスクリプト

```

on openCard
    global gPctName,gScalingMethod
    .
    .
    .
    showPCT "skincare"
    .
    .
    put "interval > both" into gScalingMethod
    .
    .

    pass openCard
end openCard

```

Scaling Methodは "interval > both" 指定されている。

showPCT "skincare" では、ファイル "skincare" を picture コマンドで開いている。このハンドラでは、同時に位置や同名のピクチャーウィンドウが存在

## スライドボタンのスクリプト

```

on mouseDown
    .
    .
    slideLower adjustH,0
    .
    .
end mouseDown
-----
on slideLower adjustH,valAdjust
    global gIndex,gLend,gRend,gLlimit,gRlimit
    .
    .
    toShowPointDownOrNot "Upper" && gIndex
end slideLower
-----
on toShowPointDownOrNot partner
    global gScalingMethod,gIndex
    .
    put "PointDown" && gIndex into obj
    if gScalingMethod contains "Both" &
    and the visible of cd btn obj is false and cd fld partner is not empty
    then
        .
        .
        send "showUp x,empty" to cd btn obj
    end if
end toShowPointDownOrNot

```

スライドボタンのスクリプトの流れで特徴的なのは "slide ..." である。これよりさらに "toShowPointDownOrNot" メッセージが発生される。

"toShowPointDownOrNot" ハンドラでは以下の 2 項目について真偽を求める。

1. ScalingMethod に "both" のオプションがとられているか
2. 対となるスライドボタンの数値フィールドが empty でないか（つまり被験者によって操作されている）か

共に真のとき "PointDown" スケールを開き "showUp" を送る。

所定の条件が満たされるとボタン"OK"にメッセージ"showUp"が送られenableになる。

### ボタン"OK"のスクリプト

```
on mouseUp
visual effect iris open slowly
go to stack "Project Home"
disableEnable "はじめに","Stage 1"
end mouseUp
```

"Preject Home"スタックに戻り"disableEnable"ハンドラ ("Project Home"スタックのスタックスクリプトにある。) でタスクスタック選択ボタン"はじめに"をdisableにして"Stage 1"をenableにする。

### 3-3 "Stage 1"スタックについて

"Stage 1"スタックは、化粧品メーカー、ブランドにたいするイメージの測定を行うためのタスクスタックである。3枚のカードから構成されている。

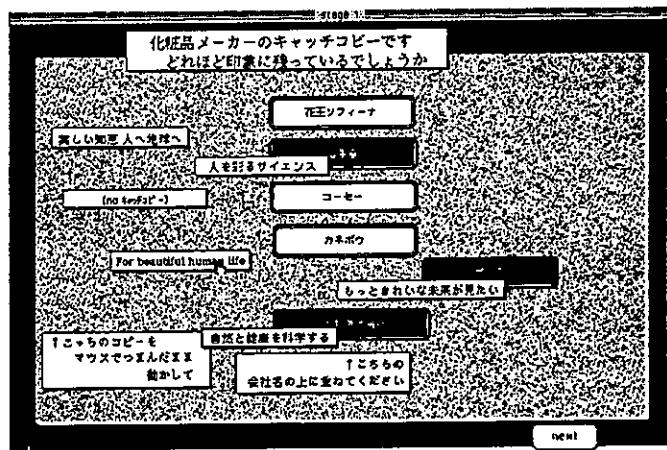
カード1 ----キャッチコピーと化粧品メーカーのマッチング

カード2 ----メーカーに対するイメージ測定 (2 Dimensional Scaling)

カード3 ----スキンケアの商品ブランドの提示

#### カード1について

このカードでは、化粧品メーカーとそれらが掲げているキャッチコピーとのマッチングを被験者によっておこなってもらう。初期状態では、画面左側にキャッチコピー、中央にメーカー名もしくは商品ブランド名のボタン、フィールドを配置している。カードが開かれた後デモが始まる。それから被験者はキャッチコピーフィールドをドラッグしてマッチングを行う。



#### スタックスクリプト

```
on openStack
global gCIList
```

gCIList(Cl=corporation-Identity)にはこのスタックで頻繁に使われる化粧ブランド名が入力される。  
"recordTaskName"ハンドラでは、タスクスタック名(="Stage 1")を引き数に反応記録用外部ファイルにデータ(スタックの頭書き)を書き出す。

```
put "花王ソフィーナ,資生堂,コーセー,カネボウ" into gCIList
recordTaskName the short name of this stack
```

```
pass openStack
end openStack
```

### カード1のスクリプト

```
on openCard
  global gMisc,gCIList
  put "0,0,0,0" into line 1
    of cd btn "next"
  put empty into gMisc
```

"gMisc"には openCard時のキャッチコピー フィールドのlocationが書き込まれる。これを 利用してcloseCard時にフィールドをもとの位 置に再配置する。ボタン"next"に"0,0,0,0"を書 き込むのはこれまで同様カウンターとして利用 するためである。

```
send "move" to cd fld "ポーラ"
```

デモ部分

```
pass openCard
end openCard
```

### フィールド関係のスクリプト

キャッチコピーフィールドをmouseDownするとメッセージ"shiftCatchCopy"が発生す る。それに対応するスクリプトが以下に示すものである。

```
on shiftCatchCopy
  set the partNumber of the target to the number of cd parts
  .
  .
  hitOrNot the short namr of target
  .
  .
end shiftCatchCopy
```

```
on hitOrNot what
  global gCIList
```

```
if the mouseLoc is within
  the rect of cd btn what
```

then

get true

renewNext(what)

else get false

set the hilite of cd btn what to it

"renewNext"では、フィー ルドとボタンがマッチしていお り,かつそれらがgCIListに含ま れるものであるときボタン "next"に1を加える作業が行わ れている。"hitAll"関数では, ボタン"next"を参照してすべて のボタン, フィールドのマッチ んグが行われたかどうかを判定 している。行われていたら "true"をかえす。

if hitAll() is true and the enabled of cd btn "next" is false

```

then send "showUp" to cd btn "next"
end hitOrNot

```

## カード2について

このカードでは、化粧品メーカー、ブランド（“カネボウ、コーセー、花王ソフィーナ、資生堂”）についてのイメージの測定を行う。被験者は、どの銘柄からでもはじめる事ができるし、どの順序で答えるても良い。被験者によってすべての銘柄に解答が行われて時点で"showUp"メッセージがボタン"OK"に送られる。ここで得られたデータはスタック"Stage 2"で使用される。

### カード2のスクリプト

```

on openCard
    global gMisc,gPct
    ...
    writeOwnRecord "", "" -- in this bg
    ...
end openCard

```

### ブランド選択ボタンのスクリプト

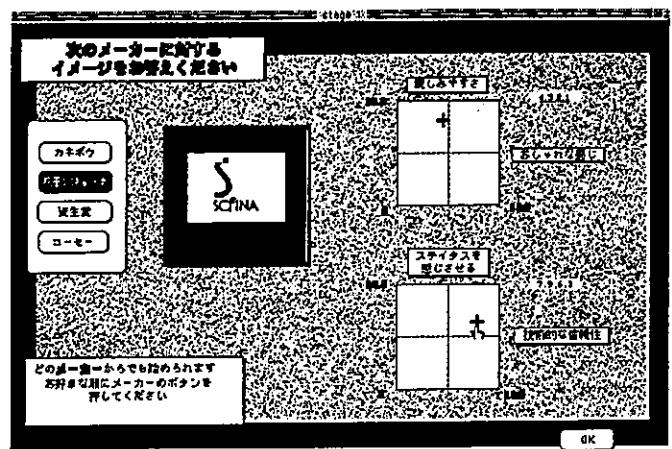
```

on Cselected myName
    global gPct,gNofScales

    disable the target
    set the hilite of
        the target to true
    send "showPct myName"
        to cd fld "wFrame"
    send "coverUncover" && "up"
        to cd btn "Cover"
    ...
    ...

    send "count myName" to cd btn "OK"
    resetScales
    enableScaleBtns true
end Cselected

```



反応を記録するための前準備として"writeOwnRecord"でファイルに頭書きを作る。

選択されたボタンはdisableとなり、ハイライトとなる。

"showPct myName"によって選択されたブランドの商品写真のピクチャーウィンドウを作る。  
"coverUncover"では、選択ボタン群を被験者から見えないようカバー（フィールドによって）している。

反応を記録するためのメッセージを発生した後ボタン"OK"にメッセージ"count myName"をおくる。これはボタンのカウンターに1を加えている。その為のハンドラは、" "OK"ボタンのスクリプト"（にある）を参照して欲しい。

次にスケールを初期状態に戻し("resetScales")そのスケールをenable(メッセージ"enableScaleBtns true"部分)に設定する。  
ここで被験者への準備が終わる。

### ボタン"OK"のスクリプト

```
on count obj
  global gCIList
```

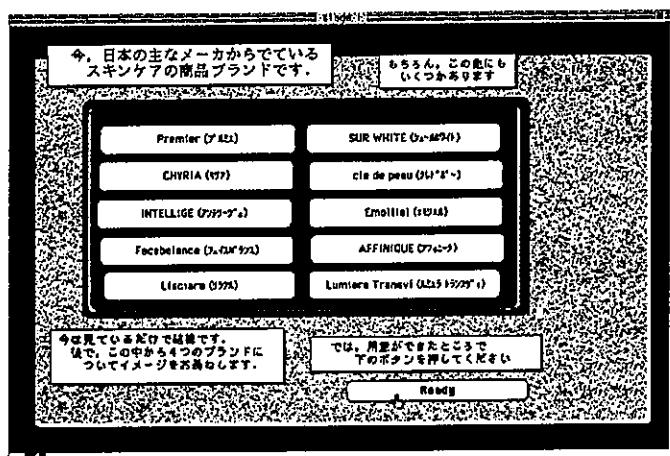
```
put itemN(obj,gCIList) into N
add 1 to item N of me
end count
```

関数"itemN(obj,list)"はスタック"utilities"に記述されているものである。"obj"が"list"の何番目のアイテムであるかを返してくれる。

スケール関係のスクリプトはP.を参照

### カード3について

このカードでは、被験者に対しスキンケアの商品ブランドを提示する。このカードのねらいはこのタスクスタックに続く"Stage 2"での測定にたいする注意の喚起である。提示する銘柄は日本国内のブランド、メーカーのもの10種類である。被験者は、提示された情報を確認した後ボタン"READY"をクリックするよう指示される。被験者がクリックすると画面は"project home"スタックに戻る。



### カード3のスクリプト

特筆すべきスクリプトが無いので省略する。

### 3-4 "Stage 2"スタックについて

"Stage 2"スタックは、スキンケア4銘柄（プルミエ、キリア、アンテリージュ、フェイスバランス）についてのイメージの測定を行うためのタスクスタックである。被験者は"Stage 1"でブランドのロゴと商品名を提示されたが、ここで続いて商品のロゴを確認する事になる。さらにカードが進むに連れモノクロの商品パッケージ、カラーのパッケージと商品特有の情報が増えていくよう設定されている。

使用される ScalingMethodは、"matching" , "1 dimensional hyper scaling" , "2 dimensional hyper scaling"の3種類である。12枚のカードで構成されている。

カード1-----宝石(12個)と商品ロゴとのマッチング

カード2 -----カード3～6での測定の導入部分

カード3～6---カード1の測定結果を初期設定としたイメージ測定

カード7 -----カード8～11での測定の導入部分

カード8～11--今までの測定結果を踏まえた上での最終測定

カード12 -----最後の画面

スタック、バックグラウンドスクリプトについて

このスタックの他タスクスタックとの相違は、データ用外部ファイルからのデータ読み込み作業があるという点である。カード1およびカード3からの測定で宝石のピクチャーデータ、イメージデータ（初期設定とするもの）を外部ファイルから取り込むので、それに必要なハンドラがスタック、バックグラウンドに書き込まれてある。

また、フィールドによるデータ管理手法の拡張の試みとしてカードの初期設定値、使用されるScaling Methodに関する情報等を各カードに設定した情報フィールドに書き込むという手法を取り入れている。このフィールドは、"cd attributes"（図3.4.1）と"Scaling Method"（図3.4.2）であり通常はinvisibleとなっている。"control"メニュー(P.10参照)の"Scaling Method","cd attributes"を選ぶとvisibleとなる。これに関するスクリプトも同様に書き込まれている。

```
NofScales: 10
Values: 0.0-10.0
Default values: 5.0
Stimulus type: PICT
Reset on close: no
```

図3.4.1

<u>Scaling method</u>
Point
Interval
Both
Point > Both
Interval > Both
Point > Interval

図3.4.2

スタックスクリプトについて

```
on openStack
global gPCTFolder,gBIList
```

...

```
enable menu "Control"
...
```

```
put "jewelry photos:" into gPCTFolder
```

```
pass openStack
end openStack
```

```
on openCard
```

```
global gScalingMethod
global gNofScales
```

```
if there is a cd fld "Stimulus name"
```

```
then
```

```
put the selectedText of cd fld "scaling
method" into gScalingMethod
```

```
end if
```

```
pass openCard
```

```
end openCard
```

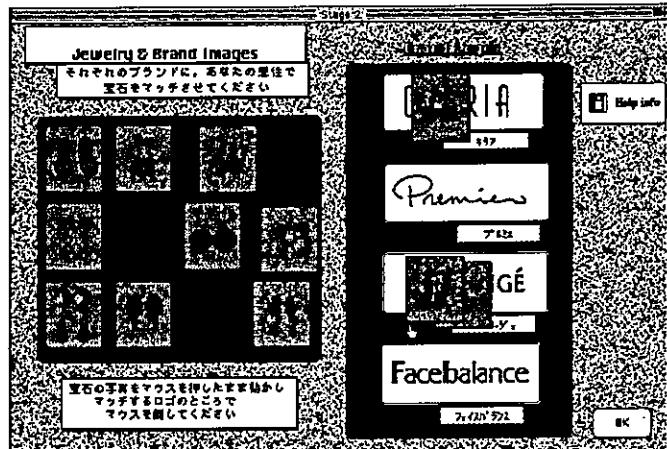
" enable menu "control"" で disable だった"control"メニューをenableに設定している。また、このカードで使う宝石のピクチャーデータを読み込むための前準備として put "jewelry photos:" into gPCTFolder がある。

カードがオープンする時そのカードが測定用のカードかどうか判定し、そうであれば "Scaling Method"情報保持用フィールド" scaling method"からその情報（設定状態）をグローバル変数 gScalingMethodに入れている。

### カード1について

このカードではスキンケアのロゴと宝石とのマッチングを行ってもらう。ロゴは4銘柄、宝石は12種類である。宝石ピクチャーは画面左の黒枠の中、ロゴは右側に配置される。被験者は宝石ピクチャーをドラッグしてマッチングを行う。複数の宝石をロゴとマッチングさせる事も可能だが最後にクリックした宝石が測定値となる。被験者はボタン"infomaton"をクリックするとこのことを知るすべてのロゴに宝石がマッチングされた時点でボタン"OK"にメッセージ "showUp"が送られがenableとなる。

ここで測定されたデータは、フィールド"record"に書き込まれ他のカードから参照、共有される。なおフィールド"record"は通常 invisible になっており"control"メニューから "show Cd Fld Record"を選択するとvisibleとなる。また、被験者はボタン"infomaton"をクリックすると情報を得る事ができる。



## カード1のスクリプト

```

on openCard
global gMisc,gBIList

.
.

repeat with i=1 to the number of
    items of gBIList
    put 0 into item i of cd btn "OK"
end repeat

.
.

showGems
end openCard

```

ボタン"OK"に"0,0,0,..."を代入しているのは、カウンターとして利用するためである。

"showGems"では、宝石のピクチャーのリストを作成し"lineUpGems"でウィンドウを指定の場所に開いている。指定の場所に開く際に同名のファイルのlocationを利用している。

## 宝石ピクチャーに対応すスクリプト

```

on mouseDownInPicture wName,xyClick
.
.
repeat until the mouse is up
.
.
gemAndBrand wName,the mouseLoc
end mouseDownInPicture
-----
```

```

on gemAndBrand wName,xyUp
global gBIList,gMisc
put false into anyHit
repeat with i=1 to
    the number of items of gBIList
    get item i of gBIList
    if xyUp is within the rect of cd btn it
    then
        blink the name of cd btn it,1,"1 ticks"
        put true into anyHit
        send "register wName,it,i" to cd btn "OK"
        exit repeat
    end if
end repeat
if anyHit is false and wName is in gMisc
then send "unregister wName" to cd btn "OK"

end gemAndBrand

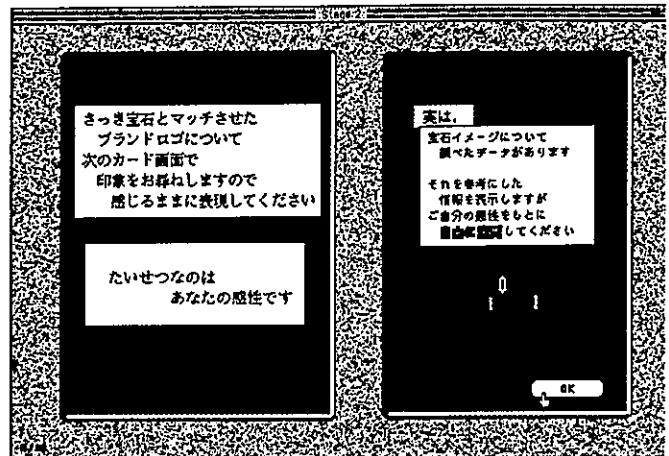
```

1. ピクチャーがロゴボタンの領域内でマウスアップされたか、真ならば2に進み、偽ならば4に進む
- 2.1 既に他のロゴにマッチングされていたかどうか
- 2.2 マッチングされていたらカウンターから1引く
3. マッチングされたロゴに対応するカウンターに1を加え終了
4. 既に他のロゴにマッチングされていたかどうか
5. マッチングされていたらカウンターから1引いて終了

以上

## カード2について

このカードでは、これからの測定の説明が行われます。カードオープン時には画面左側の”さっき宝石と・・・”とかかれたフィールドと、画面右側の”実は、”とかかれたフィールドのみが表示されている。その後、はじめに右側の、次に左側のフィールドが表示されていく。すべてのフィールドが表示されるとボタン”OK”がenableとなる。

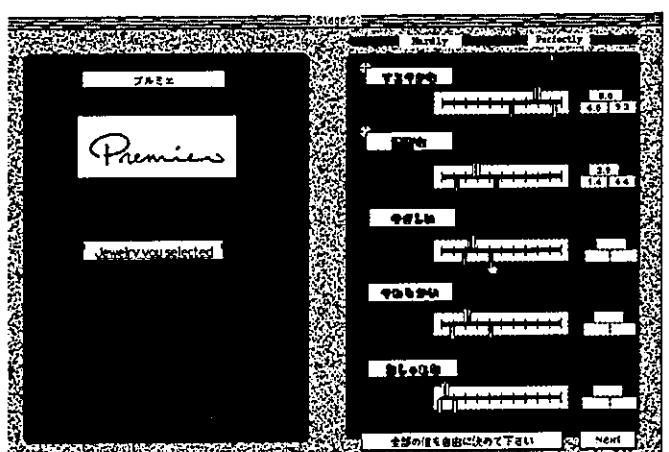


## カード2のスクリプトについて

特徴的なスクリプトがないので省略する。

## カード3～6について

このカードでは、化粧品（スキンケア）のイメージの測定を行う。測定される項目は、”すこやかな、清潔な、やさしい、やわらかい、おしゃれな”の5項目である。Scaling Methodは1 Dimensional Hyper Scalingである。画面左上方にロゴを下方にパッケージのピクチャー（但し被験者が”Jewelry you selected”的部分でマウスボタンを押している間だけ表示する）を、右側にはスケールを配置している。スケールの初期値は、宝石とのマッチングの結果を利用している。各宝石は、そのイメージを測定しておりデータ用外部ファイルとして用意されている。そこからデータを読み込みスケールのデフォルトとする。被験者がすべての項目に反応するとボタン”NEXT”がenableとなる。各スケールにたいする被験者の反応の有無はボタン”Mark”をカウンターとして利用して判定している。



## カードスクリプト

```
on openCard
  global LimL,LimR,gStartTime
  global pctMvyName,gPCT
```

```
  put cd fld "Stimulus name" into brand
  showBIPCT brand
  placeGemPCT line 2 of cd fld "gem"
```

```
nOfScales
setDefaultVals brand
setUpCounter
resetThisCd cd fld "default record"
```

```
put the ticks into gStartTime
```

```
pass openCard
end openCard
```

"showBIPCT"では、対象となるスキンケアの商品名ロゴをピクチャーとして表示している。1行上で変数"brand"にその値が代入されている。

brandplaceGemPCT line 2 of cd fld "gem"では商品とマッチングされた宝石のピクチャーを用意している。しかし、この時点では表示されない。

nOfScalesではスケールの数をグローバル変数"nOfScales"に代入します。

setDefaultVals brand では、変数"brand"を引き数として宝石とのマッチングの結果から用意されたデフォルト用の数値をフィールド"default"に書き込んでいる。

setUpCounter では、ボタン"NEXT","MARK 1,2,3,..."に"0,0,0,..."を代入し、hiliteをfalseにしている。

resetThisCd cd fld "default record"では、データ用フィールド"default record"からデータを読み込みスライドボタンをその位置に設定している。

このカードでは、"1 Dimensional Hyper Scaling"を用いて測定が行われるが、それについてのスクリプトは付録P.29を参照して欲しい。

ここでは、スクリプトの解読を助けるために、スクリプト中に出てくるフィールドについて述べておく。フィールドの位置は次のページ図3.4.2を参照して欲しい。

StimulusName ----- 対象となるスキンケアの商品名。

Mark 1 ----- スライドボタンが操作されたかどうかを判別する  
カウンターの役目

term 1 ----- 項目名

point down 1 ----- 代表値をあらわす。

lower 1 ----- 最低値をあらわす。

upper 1 ----- 最高値をあらわす。

- gem -----クリックすると被験者がマッチングした宝石のピクチャーを表示する.
- note -----注意書
- default record -----マッチングから得られた値をここに格納しdefaultとして利用する.
- response record-----被験者の反応をここに格納し共有を可能とする.
- wFrame-----商品名のロゴのピクチャーを表示するときその座標を与えるために使用する. これによって再構成や訂正が簡単になる. (スクリプトについては, P.31 「付録-2 ピクチャーの表示について」を参照)
- gemFrame-----マッチングした宝石のピクチャーを表示するときその座標を与えるために使用する. 上と同じ効果がある.

### 各フィールドの名前 (隠れているものも含む)

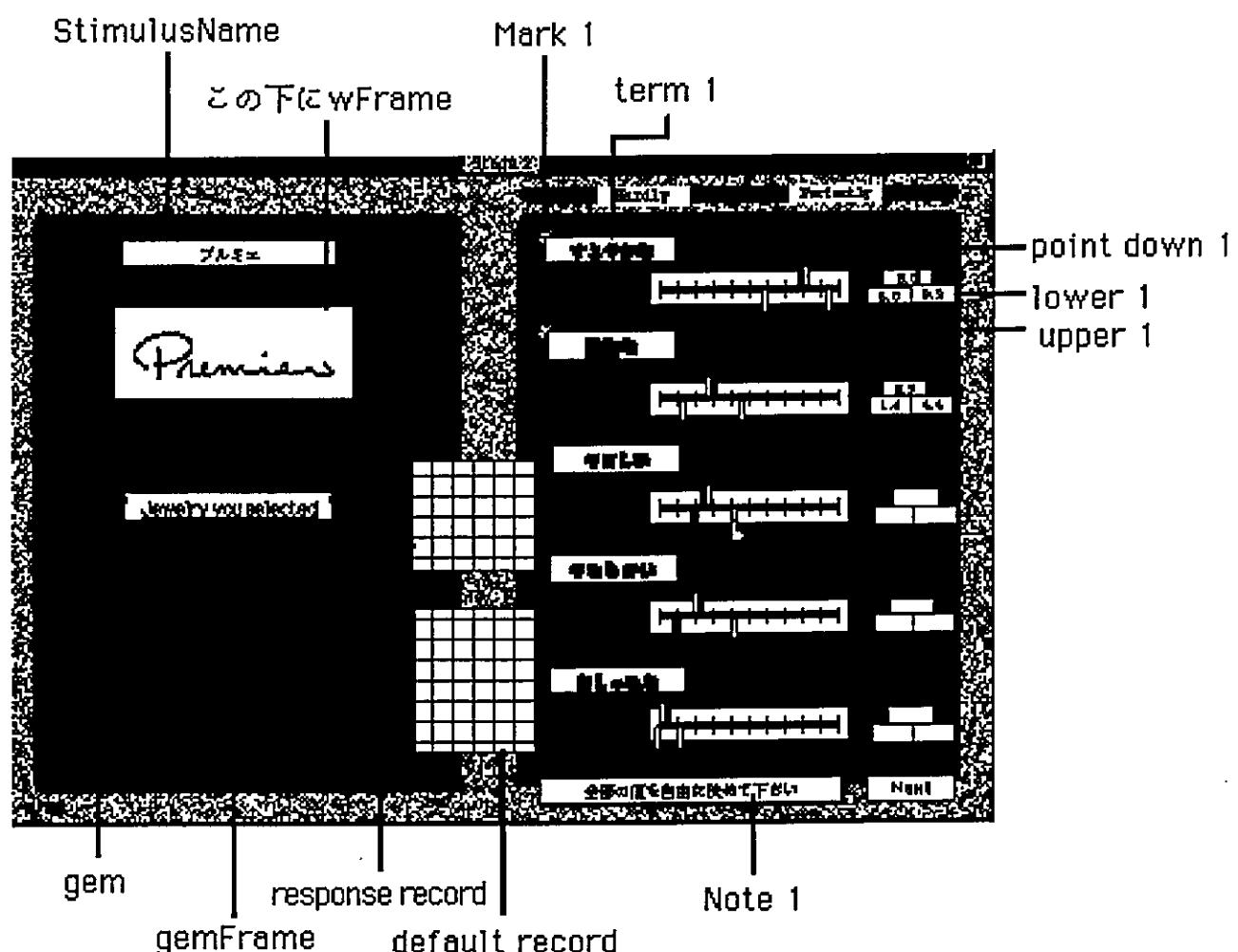


図3.4.3

## カード7について

このカードでは、測定の対象となっている4銘柄のスキンケアのパッケージを被験者に提示する。しかしこの段階ではモノトーンのピクチャーを用いる。被験者へのインパクトを段階的にするために、次のカードで個別にカラーのピクチャーを見せていく。

またこのカードには今までの測定記録を収集する記録用フィールドがあり、被験者の反応記録が整理されこの先の測定で利用される。



### カードスクリプト

```
on openCard
```

```
...
```

```
send "mouseUp" to cd fld "record"
```

```
...
```

```
pass openCard
```

```
end openCard
```

ここでデータの再構成についても少し詳しく解説する。

### フィールド"record"のスクリプト

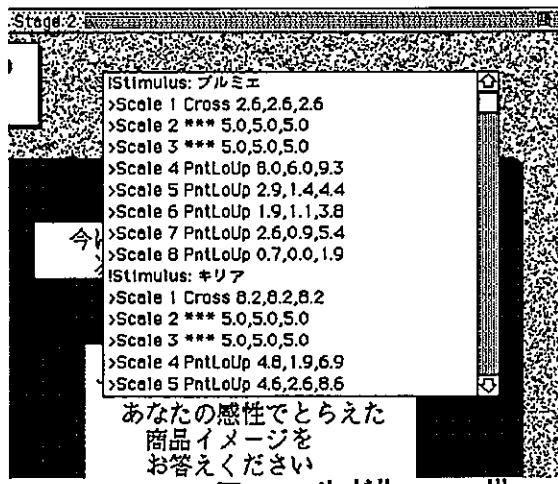
```
on mouseUp
```

```
pickupCIAnchors
```

```
collectOwnBIRecord
```

```
combineBoth
```

```
end mouseUp
```



カードフィールド "record" にメッセージ"mouseUp"を送ると今までの測定記録（被験者の反応記録）が収集されこの後の測定に利用するために再構成される。

"pickupCIAnchors" では、"stage 1"で測定したメーカーへのイメージの結果を読み込んでそのうち必要なものだけを残している。

"collectOwnBIRecord" では、"stage 2"で測定した商品名ロゴに対するイメージの結果を読み込んでいる。

"combineBoth"では上の"pickupCIAnchors" "collectOwnBIRecord"で用意したデータをまとめフィールド"record"に書き出している。

## カード8~11について

このカードでは、スキンケアの商品イメージの総合的な測定（評価）を被験者におこなってもらう。被験者はここではじめて商品パッケージのカラーピクチャーを見ることになる。使用されるScaling Methodは"1 Dimensional Hyper Scaling"である。測定項目は8項目（親しみやすい、効果がありそう、使ってみたい、すこやかな、清潔な、やさしい、やわらかい、おしゃれな）あり、このうち第1,4,5,6,7,8項目については、これまでの測定で得られた被験者の反応値をdefaultとして提示する。画面中央に商品パッケージのピクチャーを配置し、その左右に4項目づつスケールを配置した。すべての項目に反応が見られた時点でボタン"Next"にメッセージ"showUp"が送られenableとなり次のカードにすすめるようになる。



## スクリプトについて

このカードでは他の"1 Dimensional Hyper Scaling"を使用した測定用のカードと大差ないので省略する。

## カード12について

このカードで測定は終了する。被験者はプレゼントの申し込みを行う。被験者が希望メーカー、シリーズを選ぶとボタン"OK"がenableとなる。これを押すと測定は終了しスタック"project home"に移る。

## スクリプトについて

特筆すべきスクリプトがないので省略する。



以上で各カードについてのスクリプトの解説は終わりである。

# 付録 開発者のために

## 1 Hyper Scaling のスクリプト

Hyper Sclngのスクリプトを以下に示す。

"1 Dimensional"

BUTTON: "PointDown"

on mouseDown

put "Point" && last word of the short name of me into obj

recordStartTime obj -- as fldName

put (the mouseH - item 1 of the loc of me) into adjustH

set the numberFormat to "0.0"

slidePointDown adjustH,1

recordFinishTime obj

countMarker obj -- cd script

end mouseDown

on mouseDoubleClick

global gX,gStartTime

put "time: " & timeNow() & return after me

end mouseDoubleClick

on showUp x,value

put item 2 of the loc of me into y

show me at x, y

set the numberFormat to "0.0"

put value into cd fld remove("Down",the short name of me)

set the numberFormat to "0"

end showUp

"2 Dimensional"

BUTTON"cross"

on mouseDown

put the short name of me into myName

recordStartTime myName

set the numberFormat to "0.0"

```
get the loc of me  
put the mouseH - (item 1 of it) into adjustH  
put the mouseV - (item 2 of it) into adjustV
```

```
slideCross adjustH,adjustV  
recordFinishTime myName  
send "ShowUp" to cd btn "OK"  
end mouseDown
```

```
on showUp xy,value  
show me at xy  
put value into cd fld the short name of me  
-- blink the name of me,1,"10 ticks"  
end showUp
```

```
FIELD"cross"  
on mouseUp  
if the shiftKey is down  
then  
areaSize 120,120  
drawRectangle  
centerLines the loc of me  
choose browse tool  
set the autoHilite of me to false  
end if  
end mouseUp
```

```
on areaSize wide,high  
set the hilite of me to false  
set the width of me to wide -- must be an even number  
set the height of me to high  
end areaSize
```

```
on drawRectangle  
choose the rectangle tool  
set lineSize to 1  
set pattern to 1  
set Filled to true  
drag from the topLeft of me to the bottomRight of me  
end drawRectangle
```

```

on centerLines center
  choose the line tool
  brokenLine the left of me,the right of me,item 2 of center,"a,b"
  brokenLine the top of me,the bottom of me,item 1 of center,"b,a"
end centerLines

on brokenLine a,aLimit,b,ab
repeat while a<aLimit
  add 2 to a -- evry other pixel
  do "click at ab" -- a,b or b,a
end repeat
end brokenLine

```

## 2 ピクチャーの表示について

ピクチャーの表示に関するスクリプトの例を幾つかを以下に示す。ピクチャーを思い通りの場所に提示するには、提示用のフィールドを利用するよい。

```

on showBIPCT brand
  put brand && "BI" into pctName
  if there is a window pctName
    then close pctName

  put "logo photos:" into folder
  picture fullName(folder & pctName),,shadow,false,,true
  put the width of window pctName into wide
  put the height of window pctName into high
  get the loc of cd fld "wFrame"
  add -(wide div 2) to item 1 of it
  add -(high div 2) -14 to item 2 of it
  show window pctName at it
end showBIPCT

on placeGemPCT pctName -- to be shown by appropriate action
global gPct

  put line 2 of cd fld "gem" into gPct
  if there is a window gPct
    then close gPct
  put gPct into pctName

  put "gem photos:" into folder
  picture fullName(folder & pctName),,shadow,false,2,true

```

put the width of window pctName into wide  
put the height of window pctName into high  
get the loc of cd fld "gemFrame"  
add -(wide div 2) to item 1 of it  
add -(high div 2) to item 2 of it  
set the topLeft of window pctName to it  
end placeGemPCT